

## 子供と音楽

耕輔夫人 小松 廣子

子供は生れながらにして、美を愛する心を持つて居るものであります。然し美を愛する心を持つて居ても、其環境によつて或は表し得ずして、終るものもありませう。或は極端にまで之を延ばし得るもの

ありませう、例へば常に音楽を耳にし得る環境にある子供は、知らず／＼の間に、音楽に對する親しみをもつことになり、之を愛することによつて得る歡びをも受けることが出来ませう。之と反對に其周圍が全く音楽に遠ざかつて居る環境に育つ子供は音楽に對する愛好心を起す機會をもつ事が出来ないであります。

然も多くの家庭に於て美（こゝでは主として音楽をさす）に關する教育は、割合に遠ざけられて居るのではないでせうか、日本音楽にしても、西洋音楽にしても、之を家庭にとり入れて音楽に對する環境に、子供をおくといふ家庭はあまり多くを數へることは出来ないであります。

勿論音楽のみに限らず、詩歌、繪畫、など美育を行ふに適當なものもありますが、音楽は美の純然たる形であるのみならず、どんな幼い子供にでも、易易と受け入れさせる事が出来るのであります。

最初は樂隊蓄音機などによつて、快活なる曲を奏するを聞けば、子供は知らず／＼我を忘れてをどり出すであります。兄や姉の歌ふ歌は三歳の妹も之を模倣んとし、可憐の口びるを開いて歌はんとするであります。音楽は子供の世界に無くてならないものであります。

音楽、詩歌、繪畫等の了解、愛好心に對する可能は、私共自身の成長に伴ふものであつて、之を他の時に延期せらるべきものではありません。幼い間に美の教育を受けずして成長したる子供は、多くは之を愛好する時期なく人間として不幸なる生涯を終る事になるであります。

私は或人から次のやうな述懐をきいた事があります。

す。

自分は幼い時から不幸にして、美に對する愛好心をもつ事が出来なかつた、殊に音樂に於て甚だしかつた、成長と共に趣味の損失は幸福の損失である事を痛切に感じたのである、自分は最早それによつて受け得る歡びを失つて居るとはいへ、少くとも之から成長せんとする子供に、同じ損失を與へないやうにしたいと思つて居る、と、そしてつとめて音樂に親しむ機會を得んことに心がけて居らるゝのであります。

或人は美育の價值について、音樂、詩歌、繪畫等はあまりに實際の役に立たないものである、このやうな事柄を強いて子供に教へる必要はあるまい、生存競争の烈しい今日に於て、衣食住に不自由をしない程度の人を作ればよいではないか、未來の生活に不必要なる音樂、繪畫、詩歌等を教へるひまを以て實際に必要な學問をさせなければならぬと。

衣食住に不自由なく生活して行ける人を作るといふ事も、勿論大切な事でありませう、然し之のみを以て満足する人が多くなれば如何なる結果を生ずるのでありませうか、世の中は漸次荒んで來て、唯強者

は榮へ、弱者は亡び、勝利者のみが幾分幸福なるが如くなれど、大多數の劣敗者は大なる不幸に陥らねばならぬ。

かゝる域から脱するにはどうしても、美の價值を認めてそれを樂しむ能力ある人を作らねばなりません。美の價值を認めて之を樂しむ能力ある人は、生存競争の烈しい中に於て、たとひ暫しの間にでも全く利慾の念を離れて、美の世界にあそぶ事が出来るのであります。

前にも述べたやうに、音樂、詩歌、繪畫などに於ける了解、愛好に對する可能は、私共自身の成長に伴ふものであつて見れば、此の幼兒時代はそれ相當美に對する了解と愛好心を養はなければならぬ大切な時期であります。

少し脱線するやうであります、外國語の學習についても、十歳か十一歳の頃から始めなければならぬやうに聞いて居ります。趣味傾向は年齢に相當したもので無ければなりません、大人になつてから、ボーイ、ガールを主とした、子供らしいものを、それが英語を習ふ最初のものであるとはいへ、大人が趣味を感じるものではないのでありませう。

若し子供の時代に於て、生れながら以て音楽に對する愛好心が高められ、開發せられて行くならば、彼らはまだく繼續して音楽を練習することを欲し、然する事によつて起る快感を見出し、意義ある一生を全うすることが出来るのでありませう。

幼き時代は再び來らず、家庭に於て美育を受け得る機會を持たない幼児は、幼稚園時代に於て、之が保育の任に當る人この手によりて、之を補ひ、又幸ひにして美に對する環境にある幼児は、其愛好心を益々高め、開發して行くやう導くことが、大切であります。

アメリカの子供は音樂的であるといふのも、その原因は幼き時代から音樂的環境に置かれて、常に音樂に親しみ、音樂を愛し、然も音樂を愛する事によつて受け得る歡びを持ち得るからであると思ひます。

彼等は常に愉快に、常に上品に、然も餘裕ある美の世界を形づくることが出来るのであります。

將來の國民は一方に烈しき生存競争と戦ひつゝ、他方に美の世界を持ち得るやうにありたいものであります。

## 會 告

本會では從來、會費の拂込を前金の方法でなく、御入會とともに、先づ雑誌をお送り申上で、半年毎に後から納めて頂いて居りました。しかるに會の發展にともなひ、會務の整理上いろく不便を感じますので、この際、全部前金納めの方法に改めたいと存じます。就きましては、甚だ恐入りますが、來る十二月に例の通り、市内は集金郵便により、地方はハガキを以て拂込をお願い申上ます節、特に今回は一ケ年分納めて頂きたいのでございます。さすれば、明年一月より六月迄、半年の前金を願ふことが出来ます譯です。尚、既に前金御拂込の方も多數ございますが、何卒、皆様におかせられては、この旨御諒察下され、此後益々本會のために御援助下さるやう御願ひ申上ます。

大正十年十一月

日本幼稚園協會會計係